

COP15（於コペンハーゲン）における主な成果と概要

1 2 月 2 2 日
環 境 省

COP15 は予定を 1 日延長して 19 日に終了した。本会合において、米中を含む主要排出国の参加及び途上国支援を含むコペンハーゲン合意について締約国は留意することが決定されたことは、大きな成果である。

I. 成果

本会合において我が国が目指したものは、政治合意において、①米中を含む主要排出国が参加する公平かつ実効性のある枠組みを得ること、②適応、キャパシティビルディング分野などでの途上国支援の道筋を付けること、であった。

これら 2 つの課題に対して、コペンハーゲン合意（下記参照）としてまとめられたものは、数多くの国からの支持を得られたことから、今後の交渉の基盤の一つとして重要な位置を占めるべきものと考えられる。

II. 概要

1. コペンハーゲン合意

①削減目標・行動（緩和）

（1）中期目標

先進国については排出削減目標、途上国については削減行動（NAMA）を別表へ記載すべく条約事務局に来年 1 月 31 日までに届出。また、途上国の削減行動について MRV を確保。支援されていない行動については、国内で MRV を確保し、国際的に報告し、協議を受け付けることとなった。

(2) 長期目標

長期的な排出削減の指針として、温度上昇を 2°C 以内に抑えるべく削減行動をとることとされた。なお、2050 年半減は盛り込まれていなかったが、IPCC 報告書に代表される科学に基づき地球全体の排出量の大幅な削減が必要とされた。

②資金

(1) 短期資金

先進国は共同で、2010 年から 2012 年までの期間に、300 億ドルの新規で追加的な公的資金を拠出することに約束（我が国の 3 年間で 110 億ドルという鳩山イニシアティブは、その共同努力の一環）。

(2) 長期資金

2020 年までに 1000 億ドル規模の資金を動員していくとの目標に約束。

2. 今後の進め方について

(1) 京都議定書附属書の改正の取扱い

京都議定書特別作業部会（AWG-KP）の作業を継続し、CMP6 で結論を得ることになった。

(2) 包括的な枠組みの扱い

包括的な枠組みについては条約特別作業部会（AWG-LCA）の作業を継続し、COP16 で結論を得ることになった。

※COP16/CMP6 は 2010 年 11 月メキシコにて開催

(参考 1)

COP15 の最終日に開かれた全体会で、一部の国の反対があったため、全会一致での採択そのものには至らなかったが、「締約国は、コペンハーゲン合意 (Copenhagen Accord) に留意する (take notes)」ことが決定された。

この合意は、多くの国々からの支持が得られており、今後の交渉の基盤の一つとして重要な位置を占めるものである。

I. 賛成

下記の国々は、合意の作成のための首脳級会合に参加したことから、支持見込み。なお更に、これ以外の多数の国が支持を表明すると思われる。

デンマーク、英国、ドイツ、フランス、日本、米国、豪州、スウェーデン、スペイン、欧州委員会、ロシア、ノルウェー、韓国、メキシコ、南アフリカ、ブラジル、中国、インド、アルジェリア (アフリカグループ代表)、レソト、グレナダ (島しょ国代表)、インドネシア、バングラディッシュ (低開発国代表)、コロンビア、モルディブ

II. 反対国

議場において、明確に反対の立場を表明したのは、以下の国々。

ベネズエラ、キューバ、ニカラグア、ボリビア、スーダン

(参考2)

COP15は、デンマーク・コペンハーゲンにおいて12月8日から19日まで開催(小沢環境大臣は12日から19日まで参加、鳩山総理大臣は17日及び18日の首脳級会合に参加)した(COP/MOP5も同時開催)。

(バイ会談の相手)

12月14日(月)

○デボア事務局長(9:30~9:50)

○EU(スペイン・ロドリゲス気候変動担当相)(10:55~11:15)

○インド・ラメシュ環境・森林大臣(16:50~17:05)

12月15日(火)

○ゲレダ(AOSIS代表)デビット外務大臣(11:00~11:30)

○メキシコ・ケサダ環境・天然資源大臣(12:00~12:30)

○アルジェリア(アフリカ・グループ代表)ラマニ(Rahmani)計画・環境・観光大臣他(14:00~14:30)

12月16日(水)

○豪・ウォン気候変動担当大臣(11:10~11:40)

○アメリカ・スターン特使(13:35~13:55)

○韓国・イ・マニ環境部長官(16:00~16:30)